



創立20年を迎えたキャンパス。学生や社会が変わっていく中「大学も常に新しさを失わないようにしていきたい」と川上理事長は話す。

や「地域」ということを強く意識して考えている取り組みがありますか。

前提として、学生がどこに就職するのかは自由なので、地元企業への就職を強制することはできません。大学としてできるのは、地元企業への就職の動機付けであると思っています。

今回の改革の中で意識して強化しているのが、看護学群も含めた新入生全員が必修として体験する地域フィールドワークという活動です。今年には宮城県内4つの地方自治体にお世話になり、市町の実情や課題を、現場で勉強する機会を設けました。そして、その課題に対して自分は何ができるのかをグ

## クローズアップインタビュー

# 創立20周年を節目に 改革の歩みを進め、 地元である仙台・宮城、 そして世界で活躍する 人材を育成します。

公立大学法人 宮城大学  
理事長 学長  
仙台商工会議所 顧問  
かわかみのぶあき  
**川上 伸昭氏**  
プロフィール

昭和31年5月20日生まれ。東京出身。血液型O型。  
東京生まれの仙台育ちで、出身高校は宮城県仙台第一高等学校。卒業後、北海道大学工学部応用物理学科に進み、卒業後は同大学大学院工学研究科に進学した。応用物理学を専攻し、修士課程修了後、昭和56年科学技術庁に入庁。在オーストラリア日本国大使館一等書記官、文部科学省研究振興局基礎基盤研究課長、(独)科学技術振興機構理事、文部科学省科学技術・学術政策局長、同科学技術・学術政策研究所長などを経て、平成29年4月より現職。



## 原点を見つめ直した 20年目の「大学改革」

「大学創立20周年、おめでとうございます。ご自身も、今年4月1日に理事長兼学長にご就任されましたが、今のお気持ちを聞かせください。」

宮城大学は事業構想学部という、当時としては画期的な学部を備えた大学として生まれたわけですが、20周年というところで、その原点を振り返る年に学長に就任したことは、極めて幸運だと思っています。

事業構想学部と共に看護学部も設けられました。後に設置された食産業学部は、食料生産から消費者の口に入るまで、「食産業」の全過程について学ぶという、今でも日本の中ではユニークな存在です。また、大和キャンパスの斬新なたたずまいは、20年経っても世界に通用するものと自負しています。

「宮城大学では、「大学改革」に取り組んでいると伺いました。どのような内容でしょうか。」

大きく分けて3つあります。

1つ目は、これまで専門体系としてあった学部・学科の構成を、学生の学びの方向性を重視して学群・学類という構成に変えました。特に1年次は、学群という大きな組織で1年間学びながら、その過程で自分の適性を見極め、学類を選択していくようにしたことが大きな変化です。

にならないように取り組むこと。その上で、社会が大きく変わっていく中で、学生たちをしっかりと先導する大学となるために、20年の歴史や伝統に寄りかかることなく、新しい活動、知識をどれだけ生み出していけるかが、大学の価値になりますので、そのような点を強化してまいります。

「商工会議所会員の皆さんに、メッセージをお願いします。」

宮城大学は宮城県にある大学として、宮城県をフィールドとして、社会に根ざした教育を受けた人材を輩出してまいりますので、ぜひ関心を持ってください。今後とも、商工会議所会員企業の方々に、宮城大学サポーター企業群としてご協力をお願いします。

**【概要】**  
**公立大学法人 宮城大学**

代表者：理事長 学長 川上 伸昭  
開学：平成9年4月  
学部(学群)：看護学部・事業構想学部・食産業学部  
(今年度より看護学群・事業構想学群・食産業学群)  
大学院(博士課程)：看護学研究科・事業構想学研究科・食産業学研究科  
所在地：大和キャンパス 黒川郡大和町学苑1番地1  
TEL. 022-377-8205  
太白キャンパス 仙台市太白区旗立二丁目2番1号  
TEL. 022-245-2211  
ホームページ：http://www.myu.ac.jp

## やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。  
大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。  
私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。



より良い環境をめざす  
**AOBA 青葉環境保全**  
本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)

2つ目は基礎教育の充実です。最初の1年間で専門的知識を得る前の基礎教育を充実させました。その軸となる全学群共通の必修科目群「フレッシュマンコア」では、専門科目を主体的に学ぶための準備を行います。

そして3つ目は入試改革です。AO入試を初めて導入しました。これは、一般の入試に比べると明確な目標を持ち、自分で計画を立て行動できる、特長のある学生を得ることが目的です。

宮城大学は日本で初めて事業構想学部を設けたように、新しいものをつくり出せる人材を育成してきたのですが、20年が経過し、安定志向が強くなってきたようにも感じています。そこで、もっとベンチャー系ピリットを持った学生を育成するといったこの改革は、開学の原点に戻ろうとしている内容であるとも言えます。これこそが、宮城が宮城大学をつくった意図であると思えますので、学生が変わってきているから、それに合わせるといっても、その意図を改めて見詰め直し、宮城県のためになる大学になっていきたいと思っています。

宮城県の経済をより良い方向へと変えるには、もっと新しい企業が生まれ、新しい産業を興すことも大切なことだろうと思うのです。

## フィールドに出て、 課題解決策を探る

「地元公立大学として、特に「地元」